

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

○これも終活の一つ？奇跡のような同期会！

ここ数ヶ月 懐かしい再会や 新たな出会いの機会が多
い！自らが、各地に出かけ（用件は様々だが！）、ある意味積極的に、その機会を創り出していることが原因なのであるが、私にとっては、これもまた、一つの「終活」の形かもしれない!!今動かなければ、これから先、同じことが出来るかと言えば、おそらく出来ない（結果的に出来たとしても…）！だから、今無理してでも動いておこう！そういうことである！それが、今回は、高校の、沖縄でのミニミニ同期会への参加である（それにしても、何故沖縄で？）！

実は、この会は、3年前の「古希」を祝つての全体会同期会をきつかけとしてうまれたものであるが、今回は、沖縄での「一泊旅行」となつた次第である。僅か11名の人數であったが、久し振りの再会であった（一人？は、55年振り！詳しい旅の紹介は、ここでは出来ないが、一つここで書いておきたいことは、参加者全員が、「この旅を（短いが！）ただし、数泊の人もいた！）、自分の思い出や、現在の暮らしに、彩りを添えるために（私が、それを、ある種の「終活」と位置付けたように？）、動いたであろうことである！
ただし、こういう会は、過去何度も書いているが、中心となり世話ををする人がいないと、実現しない！この会では、K（旧姓）さんのような存在（F県在住）であるが、一年前から計画を立て、予約・交渉等も、すべて彼女が行つた！地元在住の身としては、大変申し訳なかつたとも思うが、甘えさせてもらつたということである！いずれにしても、大変楽しい時間であった！一人、我が家に前泊をしてくれた友人（Y君）もいたが、まるで奇跡としか言いようがない！

ところで、最近は、何故か、ユーチューブの視聴が増えている！もちろん、手当たり次第に視聴しているわけではないが（古代史関係が中心である！）、その中に、とても面白い（インパクトのある？）人物がいることが分かつてきた！なかでも、MMという人物（作家／予備校講師という肩書）であるが、古代史、そして現代史の双方で、とても歯切れのよい発言が（多少暴言気味が気になるが）、笑、目に付くのである（多くの人達との交流、そしてコラボ動画も、同時に配信している！）！

探究的な授業デザインなど、学ぶべきところは多いでしょう。しかし一方で、私たちは『外国の教育が優れている』『日本の教育が劣っている』と思い込んでしまってはいないでしょうか。実際のところ、日本の教育には世界に誇れる強みが数多くあります。むしろ、海外の教育関係者の中には『日本の教育から学びたい』と言う人も少なくありません。』とあつた。

そして、「世界トップレベルの学力」として、「海外の教育者・大学関係者や研究者が、『日本の学生は本当に優秀だ』と言っている。英語が喋れない人が多い」という点を除けば、数学的思考力・論理

思想、歴史、そして、政治へのコミットメントが、これまでの、その種の人物と比べると、かなりの懸隔がある（もちろんいい意味で！）！彼のスタンスは、いわゆる「保守」だそうである（だが、今までのそれとは一味違う？）が、ここで書いておきたいことは、その「保守」と、それと対峙する「革新」（否、「リベラル」？）の関係、換言すれば、国の歴史や政治の大きな分析枠として、彼が縦横無尽に駆使している、その「知性？」についてである！
端的には、私がこれまで抱いていた、既存の政党や、それに、相変わらずのレッテルを張つてしか、現状を見ることのないマスコミに対する違和感の原因を、彼の言動によつて知られたように思うということである！詳しくは、これ以上書けないが、自らが、これから依つて立つスタンス（心？思想？）が、少し見えてきたということがある！保守と革新（リベラル？）の相剋（融合？）を如何に新しいものにしていくか？それが、私の最後のスタンスなのかもしれない？

的思考力・読解力の水準は非常に高い（O E C D の P I S A ・ 国際学習到達度調査／15歳を対象に『数学リテラシー』『科学リテラシー』『読解力』などを比較。日本の生徒たちは常に数学リテラシーで世界トップクラスの成績を維持しています。つまり、『知識の詰め込み教育』と批判されがちな日本の教育ですが、その知識の裏にはしっかりととした思考力が育まれているのです」とあつた。もちろん、それはそれで、傾聴に値する見解であろうが（しかし事実？）、私は、それとは違う形で、日本の教育には、他国にはない？強さ、否、良さを感じている（ただし、こちらは、かなり主観的、否、独善的かも？）。教師と生徒（学生）との人間関係や、クラスとしてのまとまりや協力関係は、極端に言えば、とても良いものだと思つてはいるのである！だが、それが、現在では、その逆となつており、しかも、それ自体が、様々な問題を惹き起こしているともされる（表面的には？）！最早、時代状況にそぐわないとも言つてはいるが、果たしてそれでいいのだろうか？要するに、そんなに簡単に、「良さ」を捨ててはいけないということである！

第 64 号
発行日
2025.11. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyouu17@outlook.jp

○日本の教育の強み？否、良さ？それを失くすな！
そんな中、過日、ネット記事で、「日本の教育の強み」についての論稿をみた（DIAMOND online：11／17配信）。少しインパクト（情報？）が古いようにも感じたが、大切な指摘だと思うので、敢えて、ここで紹介しておきたい。多少長くなるが、「近年、『北欧の教育に学べ』『フィンランド式学びのデザイン』といったテ

○何故、「」になるのか？その原因究明が先決！ ○ズーム交流・その時だけの盛り上がり？

本当は、「」のようなことは書きたくないのですが、表面の井上氏の決意？に促されて、浅薄ではあるが、私の方も、関連して少しだけ書いておきたい！それは今般の「首つた「M市」との交流の場面を視聴した（目前での録画！）。相発言（台湾有事関係）に端を発する騒動（今のところは？）その後、何の音沙汰もないで、担当者等も替わり、相変のことである！彼女の発言（答弁）が、予期せぬ？事態（端わらずの？状態なのかなとも思つたが、当地の友人であるために、何とも言えない、鬱屈とした思いを抱かざる）とであるが、何とも言えない、後の状況は、案の定であったが、新しい教育長さんも、を得ない！どうして、いつもそうなつてしまふの？その原因は、ある意味分かつているのに、何故、それが除去出来ない？しかも、すべてがそうなつてしまふ！

現実の外交には、自分達だけではどうしようもない状況・構図が立ちはだかっているということであるが、そこから、新たな動きが生まれていない？それは書くのも嫌になるくらい、重大な問題・課題が幾重にもある！そして、そのために、苦しい、そして悲しい日々を送っている人達がいる！国と国との関係上、そうならざるを得ないと言えば、まさにそののであらうが、残念ながら、その打開策が見えていない（頼みの国連も？）！否、それを拒否しようとしている国もある？そんな国々が、自國の国益を保持せんがために、虚々実々の駆け引き、動きを取つてているのが（「自國ファースト」、「」の世界とも言える！）それは、ある意味当然であろう！

そこで、今回思つたことは、自国内での自分達の論議が、他方で、国外との関係に影響を及ぼすという状況、端的に言えば、「利用される場合がある！」ということを、為政者や国民が、どのように理解し、その対処策を共有し合えるかということである！言論の自由とか、思想信条の自由とか、いろいろあるが、それが、他人や他国にどのように受け止められるかということである！「お花畑」（現実指向の人達が、揶揄的に使う？）を夢見る）ことは大切なことであるが、そこには、そこに住む住人（国民）が、その維持・管理に懸命に励まなければ、夢物語に終わる！そのことだけは、残念ながら「冷徹な事実」であるということである！

〈特別コーナー～堂本彰夫の古代史旅枕64～〉

○突然だが、「」で「高天原神話」を探る？…その4-

三貴子についても、もう少し深掘りしたいといひであるが、「」では、天照大神の「天岩戸隠れ」について触れておきたい！ちなみに、「」には、件の「対称性／相補性」と関係する（つまり、それを象徴する「否」を尊かせる）場面（裏表）が、示されていと考へてゐるが、それを暗示（象徴）するために考案されたものと「」である！

その最大の場面（裏表）が、「隠れる前」の大神と「再び現れた」大神の関係である（それと並行して、別途気になるのが、「日食」との関わりもあるが）…単に、隠れた神が、再び姿を現しただけなのか？それとも、それ飛翔しないといけない（どんなに小さくとも？）？

は、いわゆる「大神の交代劇」であったのかといふことであるが（卑弥呼「と「台母／壹辱」のそれ）、もし、後者であれば、そこで示されている事績（事件）は、その頃の氏族（各種勢力）の動きや関係を如實記録しているものとも言えるわけである！

そこで、もし、そうであれば、かの「素戔嗚命」の乱暴狼藉はある時期からの「邪馬台国（連合）」の混乱と、その原因となった勢力の侵入が、そこに暗喩されていることになる！ただし、その場合、「素戔嗚命」の出雲道放（奥は進田）は、その後のことであるので、その乱暴狼藉自体は、出雲以外の地で行われていたことになる（「」と「高天原」ということで、あるが、実際には「邪馬台国（連合）＝倭國」の地といふ）ことが、最も素戔嗚性が高い）！

しかも、「素戔嗚命」自身も、天孫族の一員なのである（ある意味、天孫の分裂といふことがもしれない？）！

（）と/or（）で、高天原神話においては、「魏志倭人伝」に示されている「卑弥呼ないし台母／壹辱」が、万世一系の皇祖神「天照大神」に昇華されていることである！その存在（関係性）が、後の「持統天皇」に習合されているのではないかといふことである！したがって、かの素戔嗚命の、高天原における乱暴狼藉や、その後の「出雲道放→八岐大蛇退治（出雲進出→大國主の國作り→國譲り）」の神話は、その後の「邪馬台国（連合）」の推移を示すものとも言えるである！（つづく）（堂本）

（編集後記）いろんなところへ行つた（参加した）今月であつたが、いよいよ残すところ、あと一月である！だが、いつもよりは、忙しそうである！（）ことやつた。堂本）

・ 我が最後の「心（思想）？」のスタンス？

過去（保守）と未来（革新）を繋ぐ」と？！

・ 我が国の強み？ 否、良さ？ それを失くすな！ 教育の世界には それが多々ある（つた？）！

・ 『お花畑』夢見ることも 邪揄する」ととも ただそれだけでは うまく行かず！

・ 案の定 何も変わつてない？ あれは幻だったのか？ 否、そうではないはず！